

ふるさとの昔話

富士川

そのむかし

今から300年ほど前、^{ふるごおり}古郡三代が50年^{かりがねづみ}の歳月をかけて雁堤を築き、富士川の水を治めて以来、新田が開発されるなど、富士川は私たちの生活に役立ってきました。

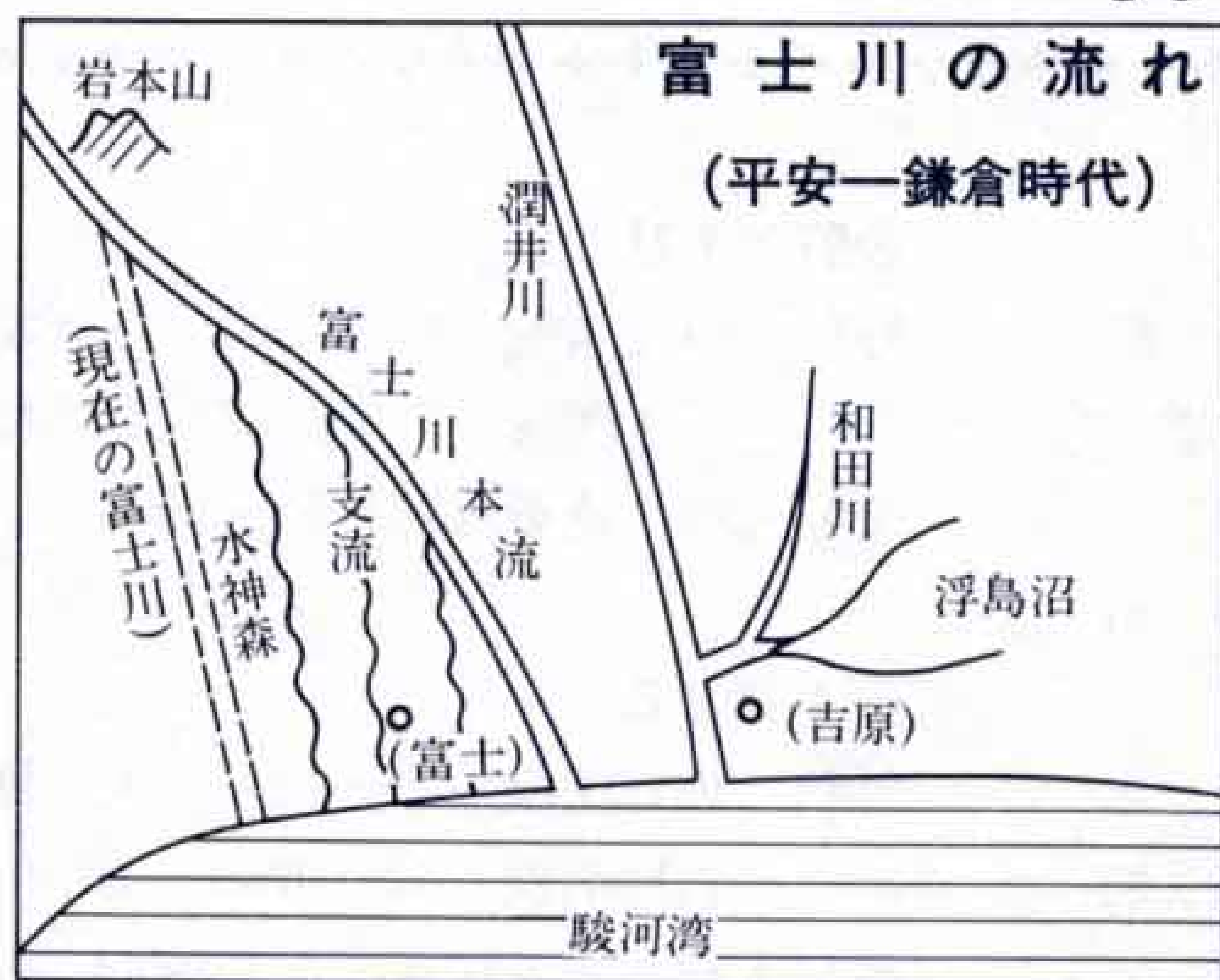
それではずっと昔の富士川はいったいどんなだったのでしょうか。

急流たぎりたつ暴れ川

富士川は現在すっかりおとなしくなっていますが、その昔は日本三大急流の一つとして知られていました。

上流部にあたる甲府盆地は、大昔湖であったといわれます。その水は岩を削り、滝となって駿河湾へかけ下ったのです。

特にひとたび大雨が降ると濁流がふくれあがり、見さかひもなくあらゆるものをのみこみ、災害をもたらす「暴れ川」だったのです。



舟による富士川の渡し



広大な扇状地一帯が富士川の川原であり、流路でもありました。

奈良時代の万葉集には「富士山から流下した水のたぎりたつ川であった。」と記されています。

通船により交易物資が

江戸時代になって、京都の豪商^{すみの}角倉了以は徳川家康から、富士川通船を命じられました。家康は軍事上の理由から富士川に橋をかけることを禁じていたのです。

土木事業家でもあった了以は、苦心して川中の岩をとり除く工事を行い、慶長12年(1607年)通船を開始しました。

甲州^{かじかざわ}鵜沢^{いわぶち}から岩瀬^{いわもと}や岩本まで、馬で3日の道のりを半日で下ることができ、村々は賑わいました。しかし、上りは綱を引いて川をのぼりました。

最盛期には1,500艘の舟がありましたが、昭和3年の^{みのふせん}身延線の開通により、その姿を消しました。

——表紙のことば——



元吉原中学校二年
鈴木久子さん

市内では、昨年一年間に123件の火災が発生し、3億1,000万円が灰になりました。そのうち、タバコの火が原因と思われるものが20件も……。防火ポスターの制作者、鈴木さんは、「タバコの投げ捨ては、絶対にやめてほしい」と話していました。

市立博物館 展示物

紹介

——特別展 仏像の源流から——



仏と供養者

石に刻まれている人々の様子からペルシヤ人であることがわかります。このことから仏教が中近東まで拡大していったことがうかがわれます。特に、この彫刻の手法は実に精巧で、ギリシヤ風手法の隆盛期のものといえます。(出土地、ガンダーラ地区・時代、紀元後2・3世紀)

仏像

仏像は紀元後2、3世紀によく出現しました。この仏はややインド化したもので、顔は丸く髪型は^{らはつ}螺髪化しており、さらに、下に火を



拝む人があり、ゾロアスター教の影響が残っている美しい仏像です。

市政15周年記念特別展

仏像の源流

——シルクロードの東西文化交流——

ただ今開催中(12月22日まで)

ところ 富士市立博物館

観覧料 大人200円・子ども100円